

医療連携

榛名荘病院
Harunaso Hospital

だより

日本医療機能評価機構認定病院



企画発行：榛名荘病院医療連携室
〒370-3347 群馬県群馬郡榛名町中室田5989
<http://www1.newweb.ne.jp/wa/haruna/>

榛名荘病院の基本理念

- 一、生命を尊重し、安全で良質な医療を提供します。
- 一、患者様の意志と権利を尊重します。
- 一、医療技術向上のため、研鑽に努めます。
- 一、地域の医療、福祉のために寄与します。

第3回群馬NST研究会開催 ～680人を越す参加者～

第3回群馬NST(※)研究会が7月9日、前橋市内の群馬県民会館で開催された。研究会は県内病院の外科医らが中心となって平成16年2月に発足。

3回目となる今回の研究会は、榛名荘病院が世話人を務めた。当日は680人を越す参加者で、通路も参加者でうまる盛況ぶりでNSTへの関心の高さがうかがわれた。



特別講演：才藤栄一先生（藤田保健衛生大学
医学部リハビリテーション医学講座教授）

※NST=Nutrition Support Team：栄養サポートチーム



【パネルディスカッション】

「NST活動と問題点—これから活動する施設に」と題して6つの病院からNSTの取り組みについての報告をいただいた。質疑応答も活発に行われ、県内のNSTに関する最新情報交換の場となった。

「中小規模病院におけるNSTの現状」

公立碓氷病院 外科 NST 柿沼臣一先生

「当院におけるNSTの現状と問題」

群馬中央総合病院 栄養課 NST 塚越 淳先生

「当院におけるNST立ち上げまでの軌跡」

館林厚生病院 検査科 NST 齋その子先生



「当院におけるNST活動～これまでとこれから」

済生会前橋病院 消化器内科 NST 神田大輔先生

「嚥下チームの立ち上げ」

前橋赤十字病院 リハビリ科 NST 田坂陽子先生

「特別発言：病院長の立場から」

榛名荘病院 内科 NST 津久井知道院長

【特別講演】

座長：群馬県立がんセンター外科 NST 外村修一先生

「摂食・嚥下の基礎知識とその対応について」

藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学

講座 教授 才藤栄一先生

Schulthess klinik での研修を終えて



群馬脊椎脊髄病センター
副センター長 笛木敬介

ヨーロッパ全域で知られる 整形外科専門病院

今年の4月から2か月間という短い期間でしたが、スイスの Schulthess klinik (シュルテス クリニック) で脊椎外科の研修を行いました。この病院は1935年に設立され、現在に至るまでに各時代ごとに素晴らしい実績を重ねて来たことで、スイスのみならず、ヨーロッパ全域に名の通った有名な整形外科の専門病院です。かねてから、当センターの清水センター長が、この病院の Spine center (脊椎外科部門) のリーダーである Dieter Grob 教授と親交があることから幸運にもその先生の下で勉強する機会を得ることができました。

連日、高名な先生方との手術に関わる

病院は国際都市チューリッヒの郊外に位置しています。決して大病院というわけではありませんが、近代的で機能的な建物で設備も充実しています。

私がお世話になった Spine center は整形外科医と神経外科医が所属し、それぞれが協力して脊椎脊髄外科の診療にあたっていました。研修医を含め多数の医師が勤務し、その頂点に国際的に有名な3名の医師がいます。整形外科医である Grob 教授、Jeszszky 先生、そして神経外科医である Porche 先生です。私は形式上は Grob 教授の Guest doctor として籍を

置きましたが、教授以外にもこれら高名な先生方の手術に連日関わることができました。

腰椎変性疾患に対する TLIF といわれる後方からの片側進入による椎体間固定術の件数が非常に多く、他に側弯症を中心とした重症脊柱変形の矯正固定術、頸椎症性脊髄症、神経根症に対する前方除圧固定術、後方除圧術、後方固定術、上位頸椎病変に対する経口腔進入手術、スクリューを駆使した後方固定術、脊椎脊髄腫瘍の摘出、再建術などの手術を経験しました。今まで経験したことのない手術法や、日本では馴染みのない各種インプラント、同種骨移植などを見ることは大変勉強になりましたが、日本で日常的に行っている一般的な手術方法もあちらでは手順や手技の点で相違点もあり、その点でも勉強になりました。

手術の一般傾向としては、他院で手術を受けたものの経過が不良な例、他院で手術は無理と判断された重症例、など難易度の高いものが目立ちました。我々のセンターでも Schluthess Klinik 程ではありませんが、同様の経過の症例を治療することがあり、その都度治療計画に頭を悩ませている現状があり、これらの経験は大変参考になりました。

滞在中、幸運なことに、Schluthess Klinik 主催の重度脊柱変形のシンポジウムがチューリッヒで催され、それにも出席することができました。ヨーロッパ各国から脊柱変形の治療に当たっている脊椎外科医がそれぞれ興味深い症例を持ち寄りプレゼンテーションを行いました。中には今まで見たこともな



各時代ごとに実績を重ねてきたシュルテスクリニック



グロブ教授の待合室 完全予約制で待つ人の姿はない



シュルテスクリニック



いような特殊病態の例も含まれおり、大変勉強になりました。

夜にはチューリヒ湖の船上ディナーで各国医師と交流する機会を持つこともできました。

チューリッヒ市内では地元の料理やビール、ワインなど楽しんだり、週末には「ハイジ」の舞台となったマイエンフェルト村に行ったり、マッターホルン、アイガーなどの有名な山々を見に行ったりとスイス生活を楽しむこともできました。ご指導いただいた Grob 教授は脊椎外科医として素晴らしいだけでなく、その人柄も温厚で、とてもユーモアのセンスのある方でした。滞在中も2回ほどご自宅に招いていただき、教授自らの手料理と秘蔵のアルコールでもてなしていただきました。ほろ酔い加減で、脊椎外科のこと、スイスのこと、日本のこと等々、教授とお話しできたことは貴重な思い出となっています。

Schluthess Klinik で学んだことを元にして今後の我々の診療をさらに充実させていきたいと考えています。



手術室にて グロブ教授と笛木医師



チューリッヒ湖の船上ディナー
各国の医師たちと



2か月過ごした部屋



グロブ教授にとって
“お好み焼き”は群馬の思い出。
お手製“お好み焼き”です。

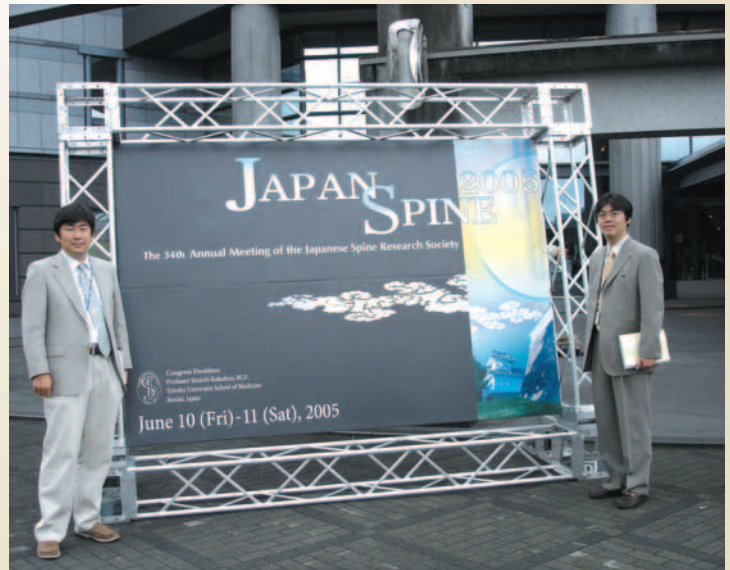


グロブ教授のオフィスにて



第34回日本脊椎脊髄病学会 JAPAN SPINE 2005

第34回日本脊椎脊髄病学会が6月10日、11日の2日間、仙台市で開催された(会長国分正一氏)。今回の主題は、頸部脊髄症、胸部脊髄症、脊髄腫瘍。当センターからは、笛木敬介副センター長が発表し、清水敬親センター長、登田尚史医師、田内 徹医師が参加した。



A Clinical Result of Occipito-Cervical or-Thoracic Fusion Using RRS Loop Spine System

RRS Loop Spine Systemを用いた
後頭骨 - 頸椎・胸椎固定術の臨床成績

今回の発表の要旨

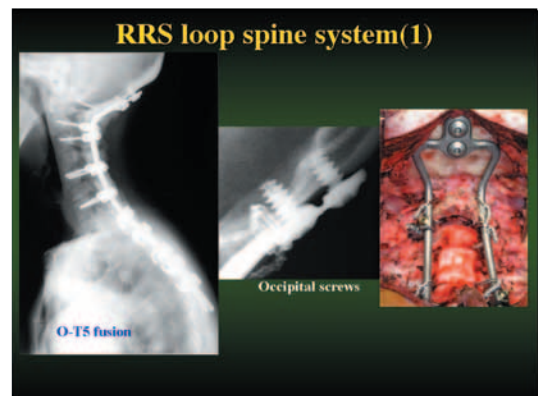
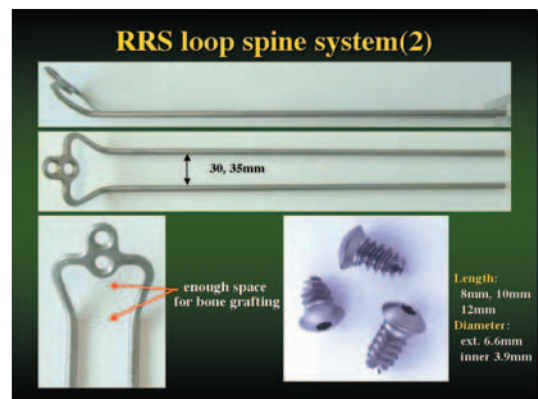
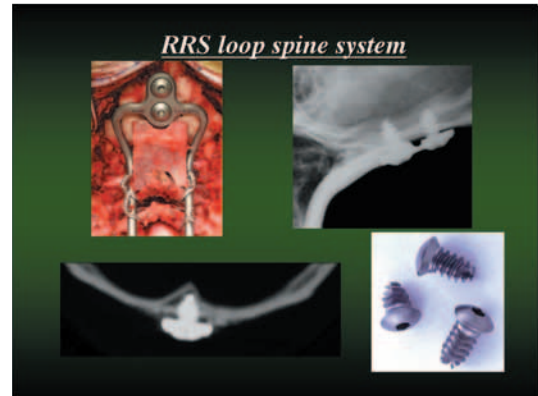


当センターで開発中の後頭骨-頸椎・胸椎固定術のための固定用ロッドRRS loop spine systemはその優れた固定性が日本各地の施設で評価され、使用されるようになってきている。

他施設からの使用報告の発表も散見されるようになった。

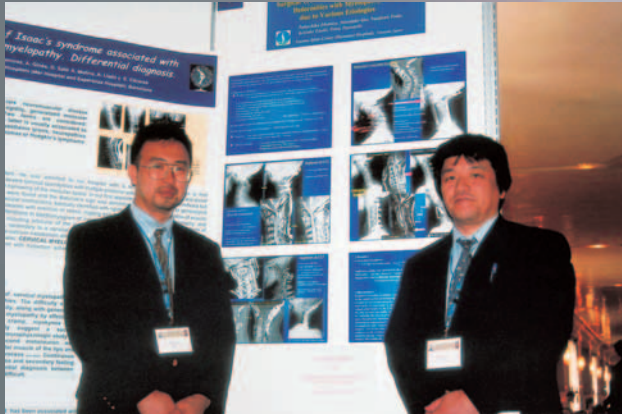
そこで、

- * 当センターが多数の使用例をもっていること。
- * 安定した臨床成績を収めていること。
- * 当初リウマチ症例に使用していたが、アトローゼ型脳性麻痺や重度知的障害の合併例などの術後管理に問題のある例にも使用し良好な成績を収めている。
- * 今後の改良について。
などについて報告した。





21st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society European Section



写真左：井野正剛医師 右：清水敬親センター長



第21回CSRS-European section(頌椎頌髄の治療・研究に関する学会 ヨーロッパ版)が6月16日、17日の2日間、イタリアのローマで開催された。

今回のメインテーマは「Cervical Spine Deformities and Malalignments = 頌椎の変形と弯曲異常」。群馬脊髄病センターから清水敬親センター長、井野正剛医師が参加し、清水センター長が2演題の発表と1セッションの座長を務めた。



優秀なポスター演題に選ばれ、カメラを通してメイン会場の大型スクリーンに映された



座長を務める清水センター長

清水センター長は以下の2演題を報告

「Surgical Treatment of Cervical Kyphotic Deformities with Myelopathy Due to Various Etiologies」
「脊髄症を伴った頌椎後彎症の外科的治療」

「A New Posterior Instrumentation for Occipit-Cervical or -Thoracic Fixation; RRS Loop Spinal System」

「後頭骨-頌椎間および後頭骨-胸椎間固定術のための新しい後方インストゥルメント：RRS Loop Spinal System」

井野正剛医師の“ローマ・レポート”



日本は頌椎頌髄の治療・研究においては世界のトップレベルで、今回も30名ほどの日本人が参加し、多くの発表をしていました。様々な意見や質問がとびかう活発な学会で、とても刺激をうけ勉強になりました。

初日の夜は、美術館の屋上テラスでメンバーのパーティーがあり、翌日の学会終了後は、ヴァチカン博物館をメンバー貸し切りで見学しました。

ローマは「永遠の都」といわれるだけあって、街のあちこちに歴史的・芸術的価値高い建造物が建っています。また、キリスト教色も強く、学会前日には、サン・ピエトロ寺院で新しく即位したローマ法王のミサがおこなわれていました。

大きな通りもありますが、街中の路地は狭く駐車場事情も悪いため、小さな車が多かったです。



サン・ピエトロ寺院

帰国前日にいったレストランで、元ミス・イタリアの女性が働いていました。とってもチャーミングでした。



こんな感じですよ



うらやましいツーショット

シリーズ 脊椎脊髄病症例

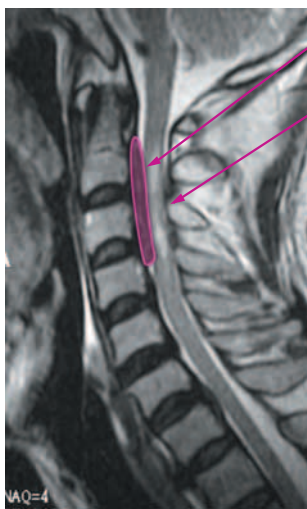
- 第3回 -

ちょっと転んだだけで・・・
< 頌椎後縦靱帯骨化症に合併した頌髄損傷 >



群馬脊椎脊髄病センター
井野正剛医師

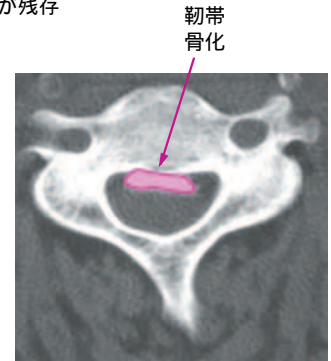
56才、男性。 お酒を飲んだ帰り道で転倒。
そのまま動けなくなり、翌日、通りがかりの人に発見されました。



受傷時 MRI



拡大術後 MRI



術前CT



受傷時 レントゲン



拡大術後 レントゲン



拡大術後CT

救急車で近くの病院に搬送されましたが、意識がはっきりしてきたところで手足の動きが悪いくことに気づかれ、MRIにて頌髄の障害が疑われたため当科転院となりました。

入院時、上肢は肩が少し動く程度、下肢は足関節～足趾が動きましたが力は弱く、膝立もできない程度で、高度の不全四肢麻痺の状態でした。

レントゲンでは頌椎部に後縦靱帯骨化(OPLL : Ossification of Posterior Longitudinal Ligament)を認め、MRIでは同部に一致して脊柱管(脊髄の通り道)の狭窄と頌髄の圧迫・頌内輝度変化を認めました。

脊髄の腫脹をおさえる点滴を行いました。が、上肢優位に麻痺の改善が悪く、後日、手術(頌部脊柱管拡大術)をおこないました。術後のリ

ハビリで歩行は可能になりましたが、上肢の麻痺は残存し、食事はスプーンでなんとかできる程度です。

頸椎OPLLは椎体後方の縦にはしる靭帯が骨化・肥厚してしまう病気で、その原因はわかっていません。首の動きが悪くなったり、脊髄を圧迫して様々な神経症状を呈することがありますが、骨化はとてもゆっくり進むため、相当厚くなるまではほとんど無症状です。しかし、頸髄が慢性的に圧迫を受けているところに、転倒や追突事故などにより頸部に急激な伸展力が加わると、脱臼や骨折など大きな骨傷がなくても頸髄が損傷される危険性があります。これはOPLL

に限らず、脊柱管がもともと狭いひと(頸部脊柱管狭窄) 使い減りの変化で椎体の変形や靭帯の肥厚をきたし脊柱管が狭くなったひと(頸椎症性脊髄症) 頸椎のヘルニアで頸髄の圧迫を受けているひとなども同様に危険です。ジェットコースターに乗っただけで四肢麻痺になった方もいます。

頸髄の圧迫による症状は、手指のしびれや動かしにくさ(お箸が使いづらくなった、など) つまづきやすい・階段を下りるとき不安だ、などがあります。

これらに心当たりがあるときは、一度、頸椎を調べることをおすすめします。

Topics

「はるな りんどうの会 “ 榛名湖一周歩こうの会 ” に参加



7月10日(日)、榛名荘病院「はるな りんどうの会」(糖尿病患者とご家族の会)が群馬大学みやま会主催の榛名湖一周歩こうの会に参加しました。榛名湖一周を歩き適度な運動後、全員で昼食をとり血糖測定を行います。

「はるな りんどうの会」は平成3年4月発足以来、外来スタッフを中心に群馬大学医学部保健学科教授伴野祥一氏を年2回お招きし、患者を対象に講演会を行っています。講演会では、栄養指導を中心に、病気に関する初歩的な説明から最新医療についてお話いただいています。また会では食事を楽しくとりながら、当院栄養課が作成する献立表(糖尿単位)を配布して栄養管理のご参考にしていただいています。

現在、「同会」会員数は28名。10月末にはりんご狩りを予定しています。

慶應義塾大学医学部 武林 亨教授 群馬郡医師会で講演される

7月14日(木)、群馬郡医師会で慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室教授武林 亨氏が「健康くらぶち21」計画の一環で行っている健診について講演されました。健診名は「にここ健診」。縦断的健康調査を7か年計画で行いますが、村民の健康、さらに自立して年齢を重ねるために生活習慣の改善支援方法を確立することを目標としています。

榛名荘病院健康管理課(安部 理所長) 榛名荘病院リハビリテーション科も健診に参加しています。



講演後、熱心な質疑応答が行われました

温室での作業療法

温室での作業療法

屋上のリハビリテラスにて外での活動が可能になるまで回復した方は次に地面に降り、園芸活動を作業療法として行います。温室を作り、冬も太陽熱を利用して地面を暖め寒くない環境を作り、夏は屋根を開けて熱気を排出して熱気がこもらぬようにして園芸療法を行います。車椅子移動にさいして地面は石膏と砂を混合した水浸透性の材料を使用しています。コンクリートやアスファルト舗装の硬い平面をさけ、転倒にさいしても優しい舗装にし、なおかつ水分の浸透を考えました。



ソーラー畑

太陽熱を利用した土中蓄熱によるOM式温室は、丸いゲル型の建物です。園芸療法はこの温室内で行われます。



(榛名荘病院長 津久井 知道)



ごあいさつ

猛暑も過ぎ涼しい季節になりました。今回は当院の栄養サポートチームの活動、脊椎脊髄病チームの活動、そして糖尿病友の会の活動を取り上げました。長期臥床のかたの栄養摂取はいま一番のトピックスです。またヨーロッパの最新病院事情、そしてメタボリックシンドロームの大きな部分を占める糖尿病での屋外運動療法を取り上げております。

榛名荘病院長 津久井 知道
医療連携室長



榛名荘病院 医療連携室

直通電話 027-374-2895
フリーダイヤル 0120 287226
直通FAX 027-374-2896
メールアドレス haruna-renkei@r8.dion.ne.jp

榛名荘病院 【診療科目】一般内科、外科、整形外科、神経内科、呼吸器科、血管外科、糖尿病外来、心臓外来、神経科、皮膚科、婦人科、眼科、耳鼻科、歯科、リハビリテーション科
【外来受付時間】 午前8時30分～午前11時30分 午後1時

30分～午後5時 月曜日～土曜日(土曜日午後・日曜日・祝祭日・年末年始休診) 027-374-1135

はるな脳外科 【診療科目】脳神経外科、内科、リハビリテーション科、摂食・嚥下機能療法外来
【外来受付時間】午前8時30分～12時(午後休診) 月曜日～土曜日(金曜日・日曜日・祝祭日・年末年始休診) 救急は24時間対応 027-343-2220

群馬脊椎脊髄病センター 【診療科目】整形外科(脊椎脊髄病疾患)、リハビリテーション科
【外来受付時間】午前8時30分～午前11時30分 月曜日～土曜日(土曜日午後・日曜日、祝祭日、年末年始休診) 完全予約制 電話受付時間15時～18時 027-343-8000
側弯症外来は、第2・第4土曜日 午前8時30分～11時。初診からセンター長の予約を承ります。